

京都市交通局 市バス・地下鉄中期経営方針

[平成24年度～平成27年度]



平成24年11月
京都市交通局

■ 趣旨・基本方針・重点取組

〔趣旨〕

経営健全化計画3年の進ちよく状況を踏まえ、市民の皆様の生活基盤の中核を担う公営交通として、今後4年間の市バス・地下鉄事業経営の**基本方針と重点取組**を明確にする。

〔基本方針〕

- ◆ 「歩くまち・京都」の交通をリードするお客様第一のサービス実現
- ◆ 地域・企業・大学など市民の皆様とともに改革する公営交通を目指す
- ◆ 頑張る公営企業として徹底した市民目線に立った更なる経営改革の実行

〔重点取組〕

- 1 お客様接遇向上・安全対策
- 2 便利でわかりやすい市バス路線・ダイヤの編成と発信
- 3 バス待ち環境の向上
- 4 地下鉄のお客様増加策
- 5 第2期駅ナカビジネス展開計画の推進
- 6 お客様サービス向上の取組
- 7 経営健全化計画の一層の推進

1 お客様接遇向上・安全対策

①交通事業者全国一のお客様接遇の実践

お客様に心からご満足いただける高品質なサービスが提供できるよう、職員研修や添乗指導等をより一層推進することにより、お客様第一の職場風土を創造し、**交通事業者全国一のお客様接遇を実践**します。

- ◇新しい職員モニター制度の実施
- ◇内容を充実した新しい接遇マニュアルの実践
- ◇接遇グレードアップセミナーの充実



②すべてのお客様に信頼される安全の追求

輸送の安全は交通事業者の最大の責務であるとの認識のもと、“事故を絶対に起こさない”という安全文化の構築を目指し、市バス事業においては、**事故の大幅削減**、地下鉄事業においては、**責任事故及び輸送障害件数0件**を目標に、安全対策を徹底します。

- ◇セーフティ&エコドライブの推進や自動車運転士セミナーの充実による運転技術指導の強化
- ◇市バス全車両へのドライブレコーダーの導入
- ◇地下鉄の安全確保に必要な知識・技能の習得と向上のための教育・訓練の充実
- ◇地下鉄烏丸線における可動式ホーム柵の設置



2 便利でわかりやすい市バス路線・ダイヤの編成と発信



基本方針

- ① お客様の利便性を第一に
- ② 新たな需要の掘り起こし
- ③ 「歩くまち・京都」の中核を担う
- ④ 「わかりやすさ」の追求



検討する主な取組

- ◇主要系統のアピール強化, わかりやすさの向上
- ◇地域とのモビリティ・マネジメントや, 大学・商店街等との協働による路線・ダイヤの充実や新たな路線設定
- ◇「四条通の公共交通優先化」や「京都駅南口駅前広場リニューアル」に向けた施策の検討(都心部の回遊性向上, 観光系統の充実等)



3 バス待ち環境の向上

① 更に快適なバス待ち環境の展開

- ◇ 広告付きバス停留所上屋の拡充
【毎年度50基ずつ設置】
- ◇ ベンチの更なる設置の推進
歩道が狭いなど、バス停周辺の環境に応じたベンチ形状の工夫等
- ◇ バスロケーションシステムの導入の促進 【毎年度5基設置 ⇒ 毎年度10基設置】
- ◇ バス停へのWiFiスポットの設置 【平成24年度中に約350基で開設予定】
[京都どこでもインターネット「KYOTO_WiFi」の推進]

(参考)バス待ち環境の整備状況(平成23年度末)

◆ 上屋設置数459基(広告付き上屋54基含む)、ベンチ設置数732基、バスロケーションシステム287基
(バス停留所総数:1,579基)

夜も明るく安全・安心
モニター式バスロケでわかりやすく
ベンチ設置で快適に



② 新しい発想によるバス待ち環境の創出

地域や民間の協力をいただき、歩道等に隣接する場所にバス待ちスペースを確保し、バス待ち時間を安全・快適かつ、有効にお過ごしいただけるよう、新たな発想による“バスの駅”設置構想を、関係機関と連携して推進します。

広いバス待ち空間

モニター式バスロケ・Wi-Fi完備

ゆったり安全・快適

チョットした買物もOK

4 地下鉄のお客様増加策

①全庁を挙げた「京都市地下鉄5万人増客推進本部」の取組の更なる推進

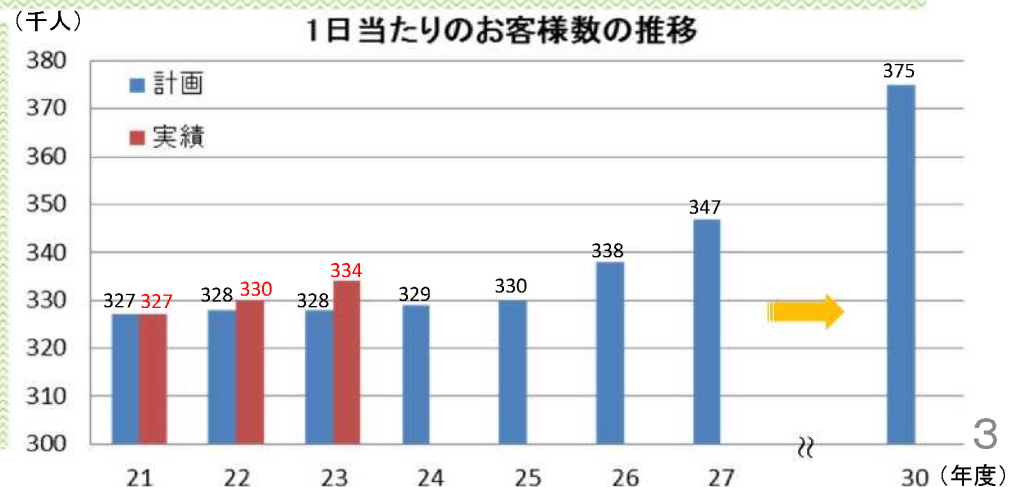
- ◇山ノ内浄水場，東部クリーンセンター跡地活用など，地下鉄駅周辺の土地の有効活用
- ◇岡崎地域，二条駅地区，三条京阪，北山駅周辺地域等の活性化にあわせた，更なる誘客の取組の推進
- ◇京の七夕，花灯路など，地下鉄沿線の集客イベントとの積極的な連携によるPRの促進
- ◇「若手職員増客チーム」の取組の推進

②地域，企業，大学や観光MICEとの連携による誘客の推進

- ◇地域や事業者との協働による「歩くまち・京都」推進の取組との連携
- ◇同志社大学の今出川キャンパス移転や京都学園大学京都太秦キャンパスの開設にあわせた誘客の取組の推進
- ◇沿線ホテルや観光MICE関連施設等との連携による増客策の実施
- ◇「京都市未来まちづくり100人委員会」との連携による増客の取組の推進

③地下鉄の魅力向上とPRの促進

- ◇コトチカ整備による駅の賑わいと華やぎの創出
- ◇駅ごとのお役立ち情報(時刻表，運賃，駅間所要時間等)を掲載したリーフレットを駅周辺の住宅にポストイング



5 第2期駅ナカビジネス展開計画の推進

第2期駅ナカビジネス展開計画（計画期間：平成25年度～30年度）

～ 地下空間を便利なにぎわい空間に！ ～

年間収入目標 **10億円**（平成30年度）

← 倍増

経営健全化計画における

目標5億円（平成25年度）

地下鉄商業空間「コトチカ」の展開



多くの乗降客の皆様の利便性を向上させるとともに、高収益が期待できる駅に、地下鉄商業空間「コトチカ」を整備し、駅空間の魅力アップを目指します。

コトチカ北大路	}	の 新設
コトチカ山科		
コトチカ御池	}	の 拡充
コトチカ京都		

【運営管理の強化による収入UP】

出店者との連携によって、お客様ニーズの把握や情報発信に努め、顧客満足度の向上と収入のアップを目指します。

その他の展開

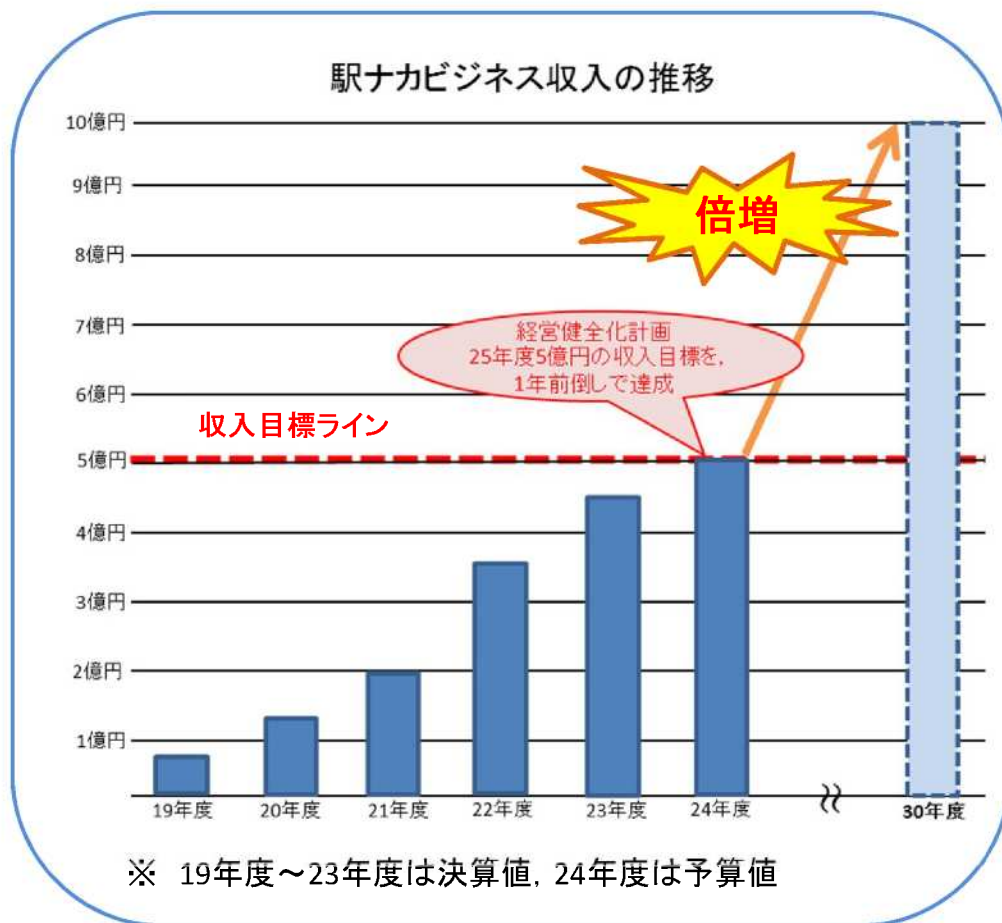
それぞれの駅の特성에応じた商業利用を促進するとともに、駅施設利用のさまざまな可能性を追求し、収入のアップを目指します。

- ◇ 三条京阪駅での店舗展開
- ◇ 丸太町駅での店舗展開
- ◇ 利便施設の拡充
 - ・全駅で傘の販売
 - ・地下鉄駅のWiFiスポットの設置等
 - ・災害型自動販売機の増設
- ◇ 簡易型店舗の増設

など

駅ナカビジネスのこれまでの展開

第1期計画:平成20年度～25年度【年間収入 5億円目標】



【第1期の主な展開】

- ◇ ATMの設置 (20年度)
- ◇ 災害対応型自動販売機の設置 (20年度)
- ◇ 駅ナカスイーツの展開 (21年度)
- ◇ オリジナルスイーツ販売開始 (21年度)
- ◇ 簡易型店舗の展開 (22年度)
- ◇ コチカ四条の開業 (22年度)
- ◇ コチカ御池の開業 (23年度)
- ◇ コチカ京都の開業 (24年度)
〔 24年9月 北改札口エリア開業
25年春 中央改札口エリア開業(予定) 〕

更なる展開

第2期駅ナカビジネス展開計画

6 お客様サービス向上の取組①

①地下鉄へのICカード「全国相互利用」サービスの開始

◇全国のJRや大手私鉄、公営地下鉄等が発行するICカード乗車券を相互に利用できるサービスの開始【平成25年春】

②市バスへのICカードシステムの導入

◇市バスへの「全国相互利用」サービスに対応したICカードシステムの導入【平成26年度中】

③市バス・地下鉄の通信環境の充実

◇走行中の地下鉄車内での携帯電話の通信を可能とする環境の整備

- ・烏丸線：平成24年度から25年度にかけて順次供用開始
- ・東西線：平成25年度から26年度にかけて順次供用開始

◇バス停、地下鉄駅等でのWiFiスポットの設置

【バス停：平成24年度中に約350基で開設予定】

【地下鉄駅：平成24年度中に四条駅、五条駅、京都駅で開設予定、以降順次開設】

【案内所(5箇所)、定期券発売所(8箇所)：平成24年度から順次開設予定】

京都どこでもインターネット「KYOTO_WiFi」



■ お客様サービス向上の取組②

④地下鉄烏丸線の駅トイレを快適にリニューアル

- ◇30年を経過した烏丸線北大路～京都間8駅のトイレを、明るく清潔で、段差がなく、すべての人にやさしいトイレとなるよう全面改修
【平成23年度：烏丸御池駅，平成24年度：四条駅，平成25年度以降順次改修を実施】

⑤市バス観光系統におけるサービスの向上

- ◇観光利用の多い系統での車内放送・停留所名表示の多言語化対応の推進
- ◇観光系統「洛バス」のラッピングのリニューアル



7 経営健全化計画の一層の推進～市バス事業～



経営健全化団体からの脱却を前倒しで達成し、
一般会計補助金に頼らない自立経営を目指します。

◇ 経営努力により2年前倒しでの経営健全化団体からの脱却を目指します。

- 経営健全化計画の目標：平成27年度 → 平成25年度
- 平成25年度に資金不足比率を20%未満にし、経営健全化団体から脱却します。

◇ 平成27年度に一般会計からの任意補助金“ゼロ”を目指します。

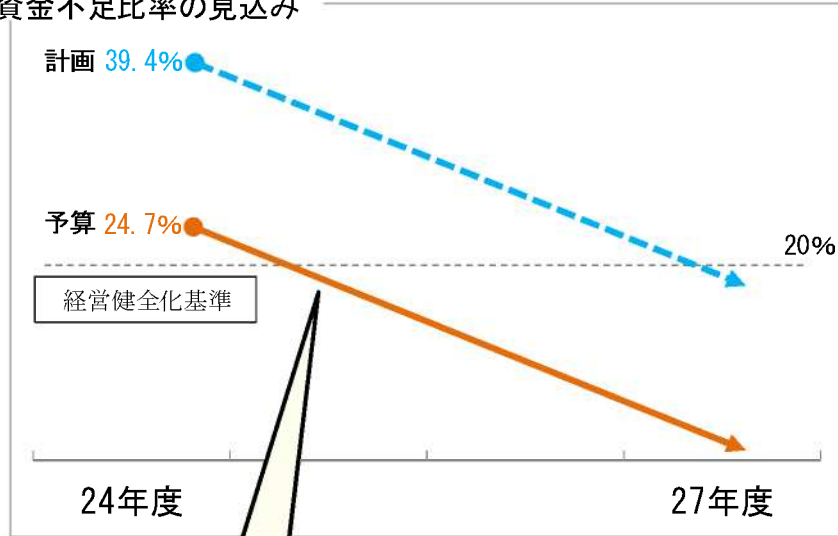
- 経営健全化計画の目標：平成30年度 → 平成27年度
- 経営健全化の取組を推進することにより、累積欠損金及び累積資金不足の解消に目途が付けられる平成27年度に一般会計からの任意補助金を“ゼロ”にします。

◇ 収入増加策、コスト削減策を更に推進します。

- 便利でわかりやすい市バス路線・ダイヤの編成やバス待ち環境の向上など、更なる利便性の向上に努めることにより、お客様の増加に取り組みます。
[1日当たりの旅客数の経営健全化計画の目標値:320千人以上、平成23年度実績:314千人]
- 営業所の再編成や市バス整備業務の委託化など、経営健全化計画に掲げるコスト削減策を着実に推進します。

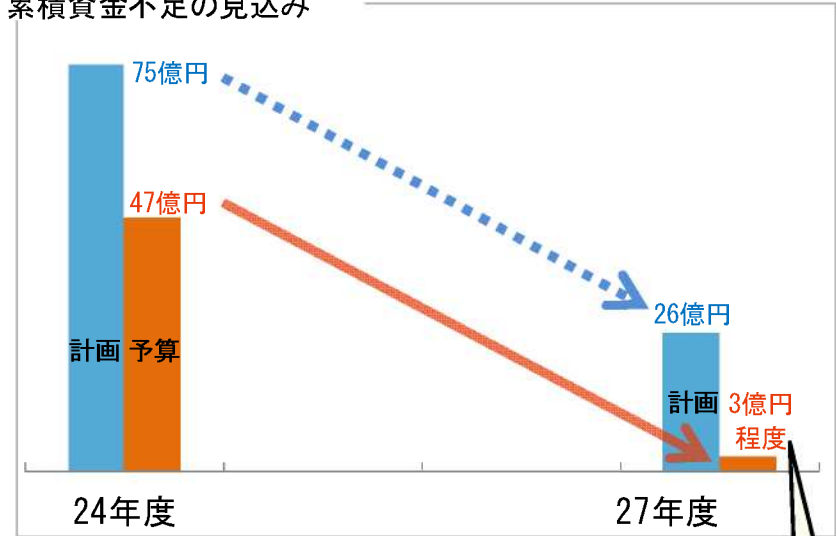
市バス事業の財政見通し(平成24年度→27年度)

資金不足比率の見込み



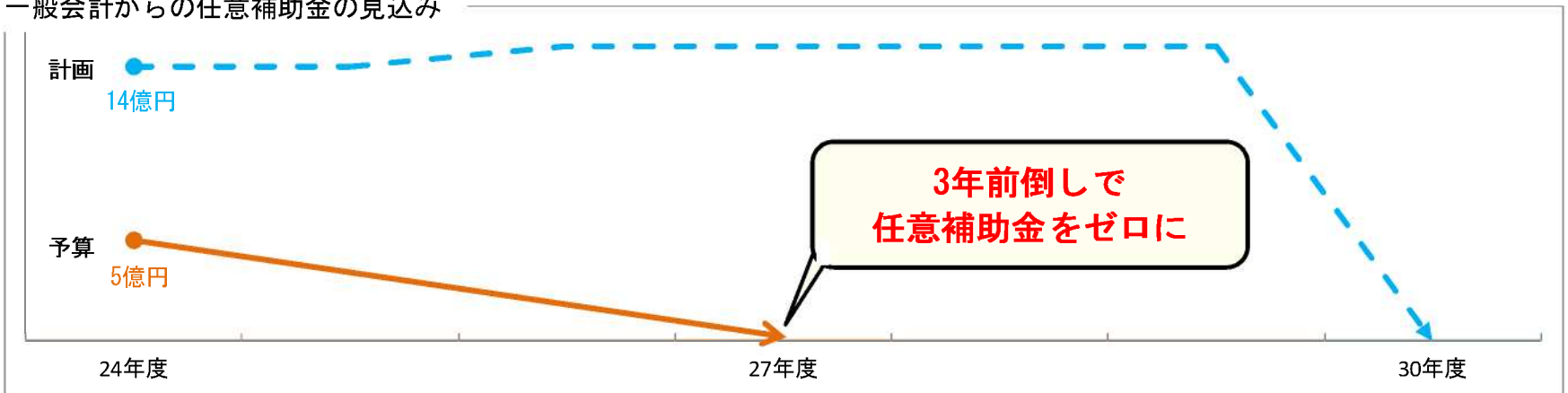
平成25年度に2年前倒しで20%未満へ

累積資金不足の見込み



**累積資金不足解消に目途をつけ、
安定的で自立した経営を確立**

一般会計からの任意補助金の見込み



**3年前倒しで
任意補助金をゼロに**

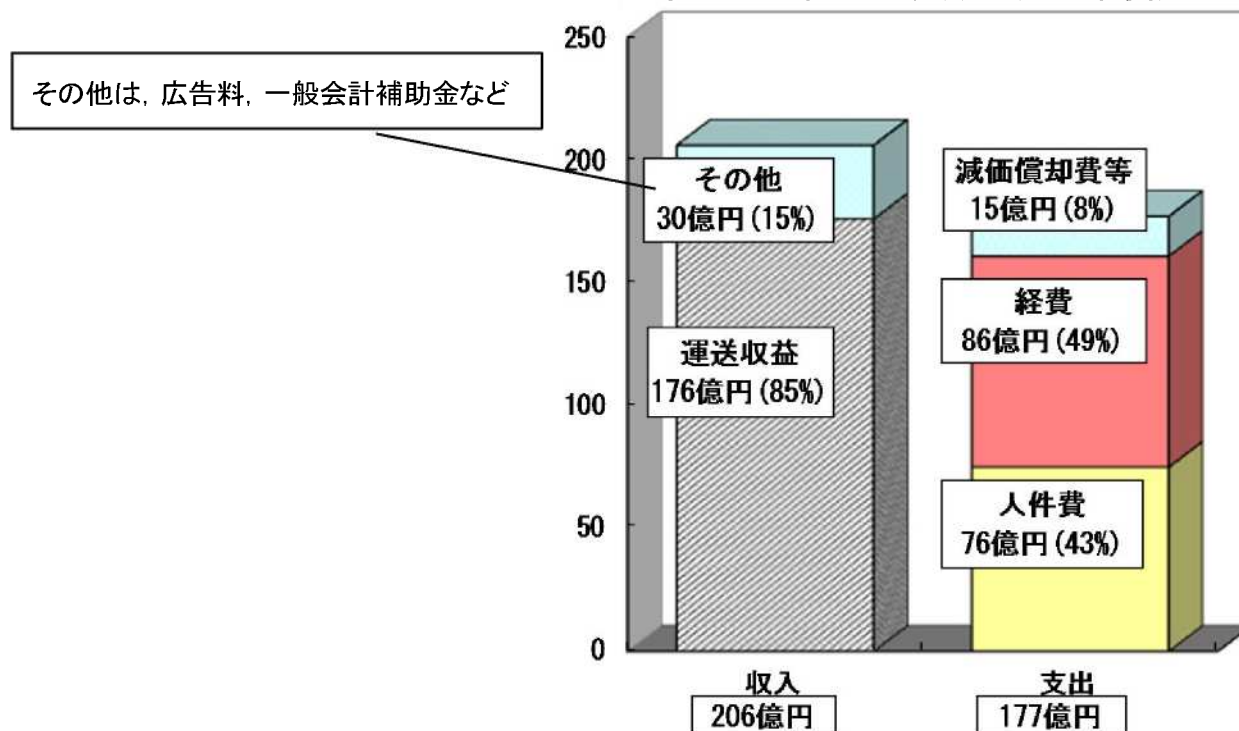
(参考)

<経営健全化計画の目標>

- ① 平成27年度までに資金不足比率を20%未満に引き下げる。
- ② 平成30年度までに累積欠損金及び累積資金不足を解消する。
- ③ 黒字基調を堅持しつつ、一般会計補助金の削減を図り、平成30年度以降においては、一般会計からの任意補助金※に頼らない運営を目指す。

※任意補助金は、減価償却費等補助金及び生活支援路線補助金

市バスの経常収支(平成23年度)



7 経営健全化計画の一層の推進～地下鉄事業～



収支改善・安定経営に向け経営健全化を着実に推進します。

◇ 市民や企業等との協働により収入増加策を更に推進します。

- 地下鉄1日5万人に向けたお客様増加策を更に推進します。
[1日当たりの旅客数(平成23年度):経営健全化計画の目標値328千人 → 実績334千人]
- 年間収入10億円を目指し、駅ナカビジネスの更なる展開を図ります。
[駅ナカビジネス収入実績(平成23年度):445百万円]

◇ 経営努力によりコスト削減策を推進します。

- 地下鉄設備の更新期間の延長や総人件費の抑制など、経営健全化計画に掲げるコスト削減策を着実に推進します。[人員削減実績:目標値100人以上 → 平成23年度までの実績87人]

◇ 将来にわたって安定的に運営していくため一般会計からの支援を確保します。

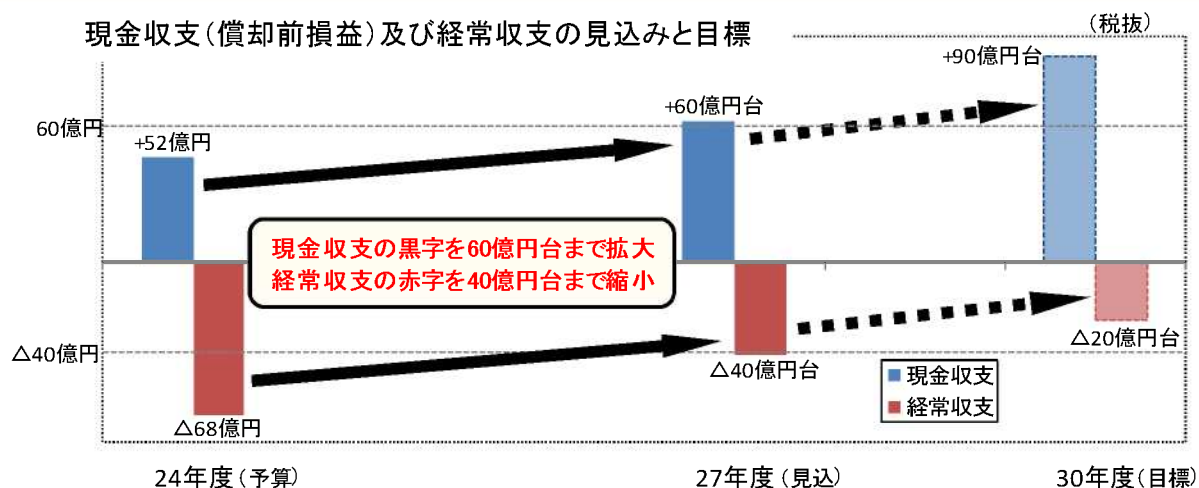
- 地下鉄事業における累積資金不足の増加の抑制と、将来における最大値が1,000億円を超えないようにするため、必要となる経営健全化対策出資金をはじめとする一般会計からの繰入金を確保します。

◆経営健全化計画で予定している運賃改定については、収支改善の状況や社会経済情勢等を踏まえ、慎重に検討します。

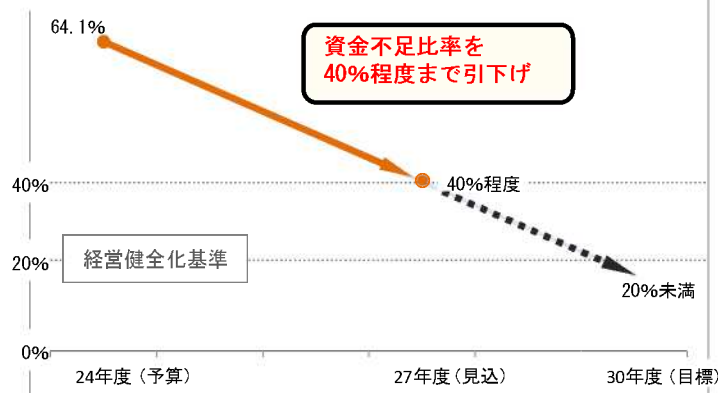
経営健全化計画の目標と財政見通し～地下鉄事業～

<経営健全化計画の目標>

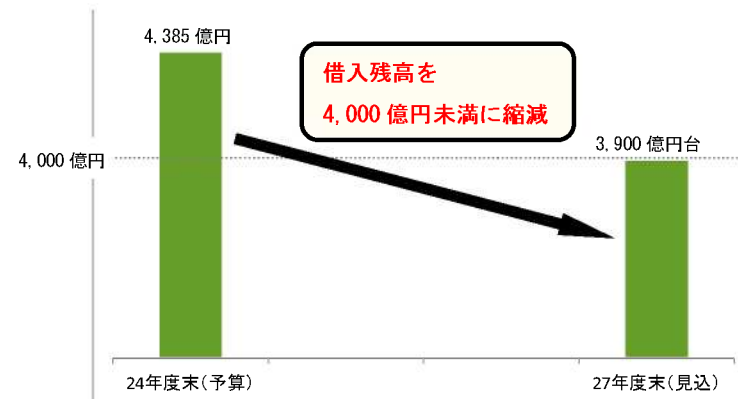
- ① 平成30年度までに資金不足比率を20%未満に引き下げる。
- ② 1日当たりのお客様数について、平成30年度までに5万人の増加を目指す。
- ③ 計画期間終了後の長期収支見込みにおいて、累積資金不足の最大値を1,000億円未満に抑制し、その早期解消に努める。



資金不足比率の見込みと目標

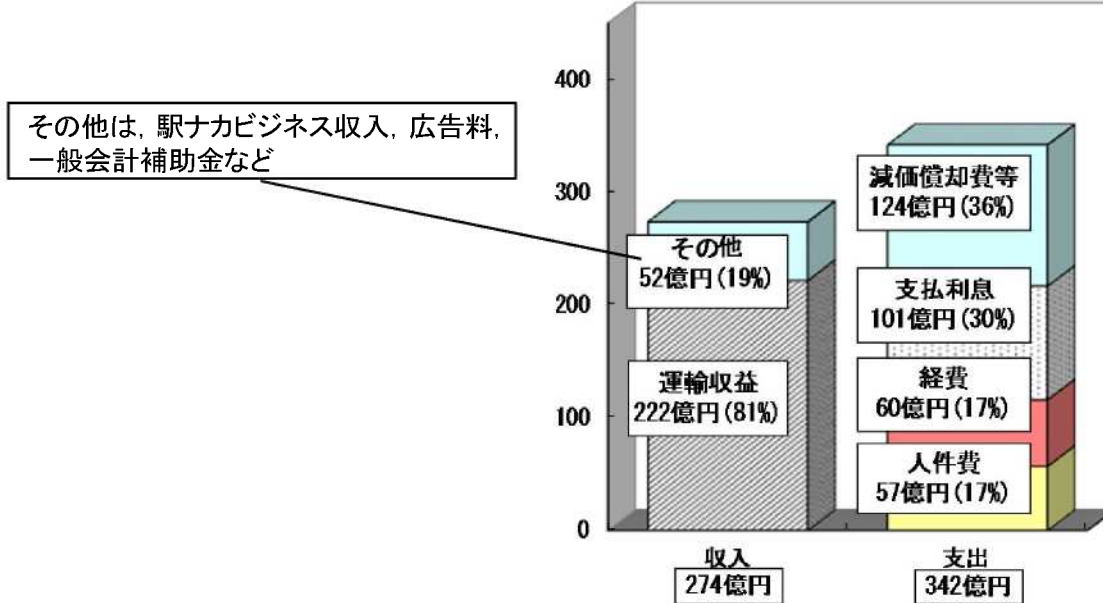


企業債等借入残高の見込み

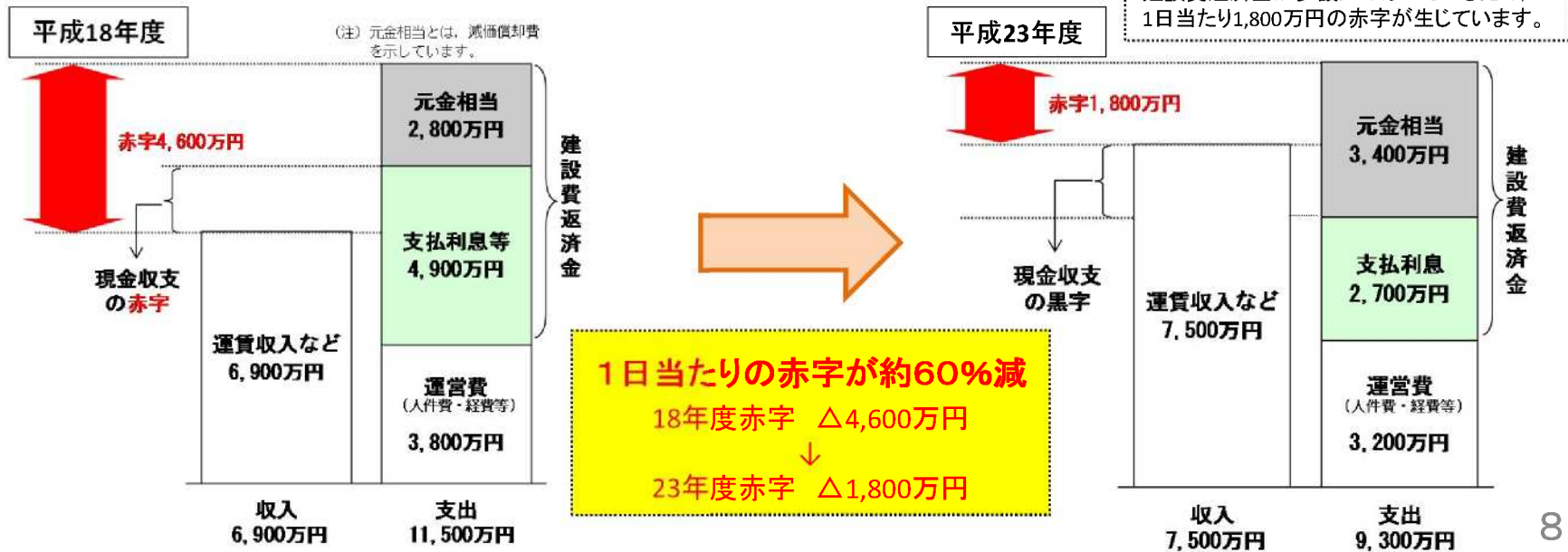


(参考)

地下鉄の経常収支(平成23年度)



1日当たりの収支状況



(参考) 経営健全化計画の進ちよく状況

市バス事業

経常収支の推移 (単位: 億円)

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	7	9	13
決算値	6	18	22	29

累積資金不足の推移 (単位: 億円)

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	△98	△95	△87
決算値	△114	△86	△70	△49

資金不足比率の推移

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	52.5%	50.2%	45.7%
実績値	59.7%	45.9%	37.4%	25.9%

<用語の説明>

- 経常収支：主たる営業活動により生じた経常収益（運賃収入、補助金等）と経常費用（人件費、経費、支払利息、減価償却費等）を差し引きしたものです。
- 現金収支：償却前損益。経常収支から現金が不要な減価償却費を除いたものです。
- 累積資金不足：日常の運転資金の不足額のことであり、言い換えれば、支払に支障を来さないように金融機関等から一時的に借り入れている金額です。

- 資金不足比率：公営企業の事業規模（運賃収入など）に対する資金不足の比率であり、経営状態の悪化の度合いを示す指標です。この指標が基準（20%）未満となるよう経営を改善する必要があります。

地下鉄事業

経常収支の推移 (単位: 億円)

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	△127	△123	△110
決算値	△144	△117	△86	△67

現金収支の推移 (単位: 億円)

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	6	7	15
決算値	△38	16	43	55

累積資金不足の推移 (単位: 億円)

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	△311	△311	△311
決算値	△310	△310	△309	△309

資金不足比率の推移

	20年度	21年度	22年度	23年度
計画値	—	126.8%	125.7%	114.0%
実績値	133.5%	114.5%	76.2%	57.8%